

ないと思いますが——を期待したいと思うのです。このことの大切さに較べれば、他のことは外で補いのつくことなのではないでしょうか。

次女は幼稚園にも先生方にも既になじみになっており、長女の時のような緊張はなからうとたかをくくっていたのですが、入園面接の前夜、急に頭痛腹痛を訴え眠

れない有様でした。翌日からは全くケロリとしていましたし、どうやら次女も長女と「同病」のようです。こんな子を送り出す幼稚園というところは、やはり優しくあたたかい場所であってほしいものです。

(岩手県宮古市在住)



## 菊池 まり

長女を地元の小さな私立幼稚園に入園させて一年半。特別な設備もなく、狭い敷地に多人数の決して恵まれた環境とは言えない幼稚園ではあるが、そこに来年は長男を入園させることにした。幼稚園に一度も通った経験のない私は、殊更に幼稚園の必要性を感じないできたのだ

が、娘の幼稚園生活を通して、その意義を見出し出しているところである。それらをふり返りつつ、更にこれから入園する子ども達にとっての幼稚園を考えてみることにしたい。

親子だけの核家族生活の中では、気をつけているつも

りでも子どもに対して甘くなる。その一方で手が行き届き過ぎ、更に育児に関する知識や情報の拡大で却って子どもの行動や心の働きまでも無意識のうちに制限してはいないだろうか。少ない家族構成、狭い隣り近所とのつき合い——子ども達が結ぶ人間関係は以前と比べて極端に少なくなっていると思われる。限られた人間関係だけの中では、子ども達の本来ののびやかな成長は歪められてはこないだろうか。人間関係が少なくなれば親とのかわりは実に大きくなってくる。のびのびと育てたい親心とは裏腹に、狭い家の中ではいたずらする前に注意が口を出る。悪いことばや流行のコマーシャルソングに眉をひそめる。思う存分けんかをさせておけない——等々、「わんぱくでもいいは建前で、日常生活の煩しさの中で果たして私達は子どもとどんな接し方をしているだろうか。ところが——幸いなるかな!! 大勢の小さな仔羊（仔豚!）達は集まることで本来のわんぱく振りを発揮し出したのである。幼稚園という場を集まり、大勢の仲間を得た子ども達の毎日は、いたずらをやり、悪い言

葉も使い、真似をして喜び、けんかをやり、意地悪をしたりされたり——生き生きして来たのである。子ども達の中にはいくつかのルールも生まれ、リーダーも出てくる。子ども達が作る多様な人間関係である。この様な状態になるには勿論多少の時間もかかったが、何よりもそれを見守って下さった先生の存在（幼稚園の方針）に依るものと思う。子ども達のうちから湧き出る行動が素直に表に出せる雰囲気が必要である。更に、子ども達のやることに神経質に反応せずに、場合に依じて、見過す、おだてる、怒鳴る、廊下に立たす——などの態度は却って子ども達に大きな安心感を与えていると思われた。

また幼稚園生活の大きな柱である季節の諸行事、各種の当番やらお弁当時間などを通して少しずつ生活のリズムというものを体得していることも忘れられない。

幼稚園の本来の目的は何であったのだろうか。果たしてよくわからない。唯、親として望みたいことは、子供達の成長をじっくりと大きな心で受けとめてくれる社会

という存在の第一歩を担ってほしいということである。

是否は別として現代は子どもにも早期の成長を余議なく迫っている。小学校にもその波は押し寄せていると言わざるを得ない。十二分に機が熟するのを待っていては落ちこぼれの烙印を押される時代になっている。この問題に關しては多くの議論が必要ではあるが、とにかく、この間違った現状に警鐘を打ち鳴らすのは幼稚園のあり方だ

と期待している。幼児期にはそのときにやるべきことを

思う存分やらせてみたい。幼稚園での絵画、歌、遊戯は、各々の子ども達の心や感情の表現のきっかけになればよいのだと思う。

子どものうちから湧き出るものを、そしてそののびやかな成長を、幼稚園と共に見守っていけたらと切に望むものである。  
(千葉市在住)



### 富岡多恵子

我が家の娘は、近所に同年令の子供が少なく、又、遊び場になるような公園もないため、友達遊びも限られた範囲だけで、時間的にも子供同志で遊んでいるのは、一日平均一時間程度にすぎません。あとは、幼い弟を相手

にして遊んだり、絵本を読んだり、散歩や買物に出かけたりの日です。よそで、子供同志楽しげに遊んでいるのに会うと、自分も一緒に遊びたくて、遊びたくてウズウズしています。従って、「来年から幼稚園よ。」と言う